

美と感動に出会う美術館

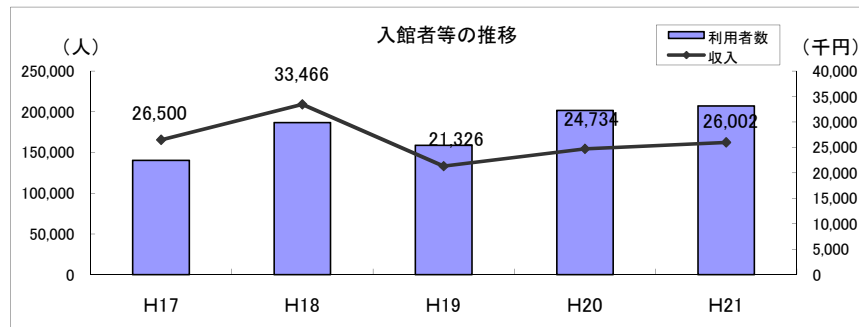
所在地	福井市文京3丁目16-1		
設置年月日	昭和52年10月1日		
施設の種類	美術館	施設管理主体	県
設置の目的	美術に関する県民の知識および教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延6,627㎡ 駐車場127台、常設展示室、貸展示室、研修室、会議室、講堂		
職員数	正職員8人、非常勤嘱託2人、事務補助1人、アルバイト3人 計14人		

利用状況等

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	140,418	186,928	158,740	201,534	207,266
収入(千円)	26,500	33,466	21,326	24,734	26,002

利用者負担(利用料金)等

観覧料 使用料	常設展	100円
	企画展	美術館HP参照
	展示室等	美術館HP参照



利用状況 の推移	平成18年度は、企画展で「水木しげる」、共催展で「黒澤明」などの開催により入館者が大幅に増加し、前年度比24%増となりました。
	平成19年度は、貸館利用は増加したものの、共催展の開催がなかったことや企画展の入場者が前年並みだったため、前年度比15%減となりました。
	平成20年度は、日展、院展などが開催されたことから、前年度比27%増となりました。
	平成21年度は、企画展4本のうち2本(レオナルド・ダヴィンチ、疾走する日本車)について1万人前後の入館があり、入館者数は前年度よりも2.8%増加しました。

施設の特徴

展示会の開催

- ・収蔵品を中心にテーマを決め、年間を通して常設展示室でテーマ展を開催しています。
- ・美術館独自の調査・研究による企画展(特別展覧会)を年に4回程度開催しています。
- ・県内各地域で美術鑑賞の機会を提供する移動美術館を年に3回開催しています。
- ・他の機関、事業体との共催展を開催しています。

教育普及活動

- ・館蔵品を県内各学校や公共施設等で展示、解説するふれあいミュージアム事業を開催しています。
- ・作品制作の初歩的な基礎を学ぶ日本画、洋画、彫刻の各基礎講座を開催しています。
- ・作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者を対象とした日本画、洋画、彫刻の各専門講座を開催しています。
- ・県民対象に美術品保存相談会を開催しています。(年1回、数日間)
- ・各企画展で講演会やワークショップ、ギャラリートークなどを開催しています。

施設・設備の提供

- ・創作グループ等の創作、研究活動の場として研修室を提供しています。
- ・創作グループ等の発表の場として展示室を提供しています。

収集活動と情報提供

- ・所蔵品検索システムにより、各家庭からでもインターネットを通じて所蔵品の検索ができます。
- ・福井の風土と歴史から生まれた美術資料および福井にゆかりのあるすぐれた美術資料の収集と保存を行っています。
- ・国の内外、時代を問わず、すぐれた美術資料の収集と保存を行っています。

調査・研究

- ・美術資料に関する学術的な調査・研究や保存、展示に関する技術的な研究を行っています。
- ・美術資料に関する解説書、図録、研究報告書などを刊行しています。

県立美術館ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>

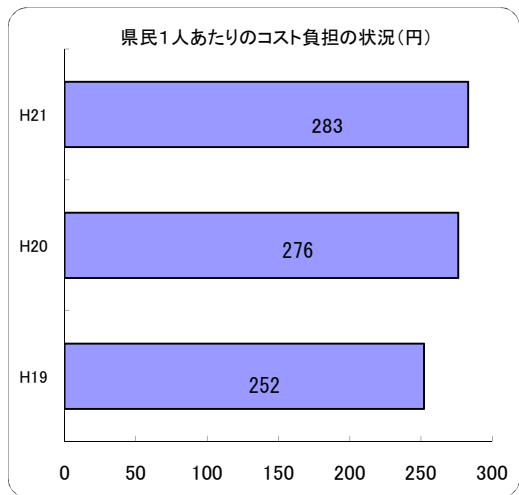
平成21年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品によるテーマ展(常設展)を年間11回開催し、33,924人が来館しました。 ・企画展を年間4回開催し、25,489人(前年度比42.2%増)が来館しました。 <ul style="list-style-type: none"> 「ジャクエツ・コレクション展」 5/1~5/24 2,439人 「レオナルド・ダヴィンチー天才!の創造カー」 7/31~8/23 9,743人 「輝きはじめた女性たちー旅する化粧道具ー」 10/24~11/23 2,590人 「疾走する日本車」 2/26~3/28 10,717人
	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた美術作品を鑑賞する機会が少ない嶺南地域で、移動美術館を年間3回開催しました。(小浜展2回 7/19~30、3/11~3/23 敦賀展1回 9/6~9/19) ・ふれあいミュージアムを、県内学校など14ヶ所で開催しました。 ・美術館の展示室を利用した美術愛好家や各種団体が主催する展覧会が、年間約100回開催され、106,255人(日展・院展がなく前年度比15.6%減)が来館しました。 ・日本画・洋画・彫刻の3部門で、実技講座の基礎講座を各10回、専門講座を各25回開催し、92人(基礎51人、専門41人)が受講しました。

福井県立美術館(2/2)

行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	89,862	35.2%	94.5%
	退職給与引当金繰入	6,041	2.4%	6864.8%
	賞与引当金繰入	4,074	1.6%	100.0%
	計	99,977	39.2%	100.7%
物にかかるコスト	物件費	99,066	38.8%	112.7%
	維持補修費	13,520	5.3%	89.0%
	減価償却費	38,153	15.0%	100.0%
	計	150,739	59.1%	106.7%
その他	支払利息	0	0.0%	—
	その他	4,257	1.7%	103.3%
	計	4,257	1.7%	103.3%
合計		254,973	100.0%	104.2%
収入	利用料等収入	26,002	10.2%	124.9%
	一般財源	228,971	89.8%	102.3%

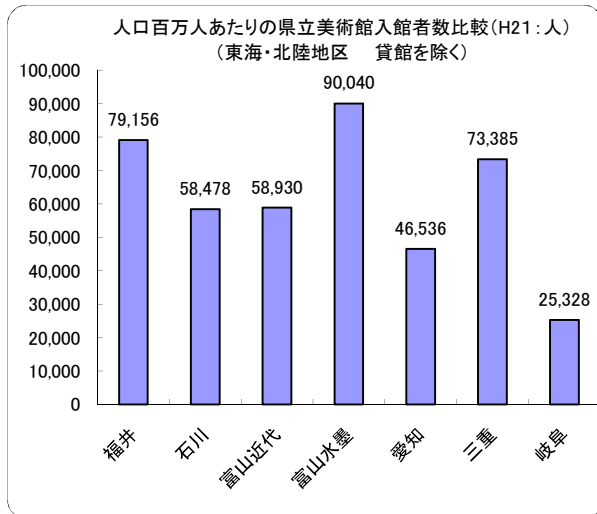


バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	5,077,596	99.5%	固定負債	54,509	96.9%
うち土地	562,080	100.0%	うち退職手当引当金	54,509	96.9%
うち建物	822,102	95.8%			
うち美術品	3,618,530	100.3%			
投資等	0	—	流動負債	11,819	103.2%
流動資産	0	—	純資産	5,011,268	99.5%
計	5,077,596	99.5%	計	5,077,596	99.5%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	6,273	6,282	99.9%
県民1人あたり将来負担額	67	69	97.1%
世代間負担率	98.7	98.7	100.0%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コスト計算書の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 物件費は、全体的な節減に努めた結果、需用費(特に光熱水費、燃料費)は前年度比4.3%減少しましたが、次の要因により全体では前年度比12.7%の増加になりました。 (要因)企画展開催費の増加(委託料、監視員や駐車場車両誘導員等の雇用に係る賃金、会場設営に係る使用料や賃借料など)美術資料の購入(20年度は購入なし) 維持補修費は、自動火災報知設備更新、受変電・遮断設備改修を行いました。前年度よりは減少しました。 利用料等収入は、企画展の有料入館者数増(前年度比41%増)、常設展の有料入館者数増(前年度比14%増)等により前年度比で25%増加しました。 <p>バランスシートの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 有形固定資産のうち、開館以来収集した935点の美術品(評価額100万円以上)が全体の約7割を占めています。このうち約3割が岡倉天心ゆかりの作品となっています。21年度は写真資料を購入し、有形固定資産(美術品)が0.3%増加しました。
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>管理部門： 施設の維持管理、美術資料の保管と管理 【H22予算額：約67百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業 … 美術資料の調査研究と購入 【H22予算額：約36百万円】 企画展開催事業 … 企画展(4回程度)、移動美術館(3回)の開催 【H22予算額：約50百万円】 教育普及事業 … 講座、ワークショップ等の開催 【H22予算額：約3.4百万円】</p>
今後の課題	<p>(幅広い年代層の新規入館者の開拓)</p> <ul style="list-style-type: none"> 常連の入館者はコンスタントにありますが、総入館者は企画展の入館者数により変動しています。若年層の来館者数が少ないため、幅広い年代層の来館者の増加を目指す必要があります。 (施設の維持管理とバリアフリーへの対応) 昭和52年の開館以来30年以上経過し、施設が老朽化しているため、大規模改修が必要になっています。また、高齢者や身障者等の来館の増加に対応し、22年度にエレベーターを整備します。 (所蔵品の充実と情報発信) 公立美術館として、今後とも所蔵品の充実に努めるとともに、個性と魅力あふれる美術館、県民や観光客等に親しまれる美術館として存在感を高め、情報発信していく必要があります。
今後の事業方針、取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> これまで、岡倉天心が率いた日本美術院の画家達の作品の収集に力を入れてきており、この分野のコレクションでは全国的に著名になっています。今後は、更に収集の範囲を広げるとともに、これまで以上に美術品の寄贈や寄託を増やし、県民の多様なニーズに応える美術館を目指していきます。 新規入館者の開拓やより親しまれる美術館を目指し、県民の多様なニーズに応えるため、様々な分野の魅力ある企画展の開催に取り組みます。 子供たちが美術に親しむ機会を増やすため、近年、ふれあいミュージアム事業の開催や、夏休み期間の子供向け展覧会の開催を行っています。今後これらもまた、新たにキッズミュージアム事業等の開催を通して、子供たちが美術に親しむ機会が増えるように努めていきます。